

授業科目名・形態	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	藤田 碧・川村 泰子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

実習に向かう自治体について既存資料を基に地域アセスメントを行う。地域の特性、顕在的・潜在的健康課題を明確にし、その解決の方向性を見出す地域アセスメントの過程を実践する。課題に対する事業・施策の案も考察する。

【到達目標】

1. 地域における多様な人々の健康課題について明らかにするための地域診断の手法について具体的に説明できる。
2. 健康問題や健康課題を解決するため、地域診断の一連の過程を実践できる。
3. 健康課題を解決するための保健活動計画（事業計画）を立案できる。
4. 既存資料や住民、関係機関から得た多角的情報を統合し地域に潜在または顕在する健康課題について根拠を持って説明できる。

【授業計画・内容】

第1回	授業の概要について・統計情報の分析の仕方	第2回	データヘルス計画・健康増進計画
第3回	ライフステージ別地域診断の枠組み	第4回	健康課題に対する事業化・施策化
第5回	既存資料の収集と考察：実習市町村の概要	第6回	既存資料の収集と考察：人口静態・人口動態
第7回	既存資料の収集と考察：主要疾患と健診結果	第8回	既存資料の収集と考察：乳幼児健診ほか
第9回	地域の特性と健康課題の関連の統合	第10回	健康課題に対する施策の考案
第11回	考察した健康課題の関連に関する検討	第12回	健康課題に対する事業・施策の考案
第13回	地域アセスメントの報告会前半	第14回	地域アセスメントの報告会後半
第15回	地域アセスメント報告書の改善		

(第1～4回目 川村 第5～15回目 川村・藤田)

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」を中心に保健師科目で学んだ内容が基礎となるため、講義前に復習する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」「保健統計学」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」等々

【教科書等】

岸恵美子ほか：保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術，メヂカルフレンド社，2022.
厚生統計協会編「国民衛生の動向 2025/2026 年」，一般財団法人 厚生労働統計協会，2025.

【参考文献】

佐伯和子ほか：公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護の方法と技術第2版，医歯薬出版株式会社，2022
佐伯和子：地域保健福祉活動のための 地域看護アセスメントガイド 第2版 地区活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案，医歯薬出版株式会社，2018
全国国民健康保険診療施設協議会：実践につながる住民参加型地域診断の手引き Version 2，2013

【成績評価方法】

筆記試験 70%、地域アセスメント報告書・事業計画書・演習への取組等 30%により総合的に評価する

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師の経験を活かし、実習地の健康課題を見出すとともに、地域に暮らす人々への敬意や、健やかな生涯を過ごすことを健康面から支えるという公衆衛生看護の発想を学生が習得できることを目指します。

【学生へのメッセージ】

公衆衛生看護活動展開論Ⅰでの学びを基に、実習地での実際のデータを活用して地域診断の具体的な演習を進めます。情報収集で得られたデータについて“なぜ・どうして”という思いを大切にしながら、頭を柔軟に取り組みましょう。また、地域アセスメントはグループで行います。1人ひとりが役割を持ち、グループ学習の効果を意識しながら積極的に取り組みましょう。